

お前な……

またそんな色に染めて……

いいじゃん

この前のテストも点数良かったし
先生に迷惑掛けてないよ？

それはそうだけどな……

学年主任に毎度毎度説明する
俺の身にもなってくれ……

でも代わりに
先生のしたいことに
付き合っただけじゃん

それに比べたら全然悪くないと
思うけどな！

それは……

ね？ じゃあ行こ
誰かに見られると良くないでしょ？

ああ……

あ 待った



この画面を見るんだ

ん…

ついて来なさい

は…



田島、お前も舌を出しなさい。

ん……はい先生……れろ……ちゅ……

放課後ほど時間が無いから普通に催眠を掛けることはせず、催眠アプリで済ませた。

田島は普段見せないトロンとした目をして俺の言う通りになっている。

髪の色に限らず普段から好き勝手されているが、その分これはお釣りがくるレベルだ。

体も髪も、触るところすべてが柔らかい。

ふう……田島、次は床に寝なさい。

はい……先生……

ポニーテールにしないで。

はい…

田島は時々体をビクッとさせるながらも
淡々と髪を結んでいく。



この後の授業はその髪型で受けるんだ。
いいね？

はい…わかりました…